



視点2 環境

視点
2-2

視点2-2 温室効果ガス排出量削減に努めます

1. 『湘南ふじさわ下水道ビジョン』での方針・目標

下水道事業は、水処理、汚泥処理及び最終処分（有効利用）の過程において、多くの温室効果ガスが生じます。また、合流式下水道の改善や汚水処理施設の普及拡大等によって、今後も温室効果ガス排出量の増加が見込まれる事業でもあります。

このため、各下水道における省エネルギーの徹底を図るとともに、下水道の中でも多量のエネルギーを消費している処理場における温室効果ガス排出量の削減を推進していく必要があります。

方針・目標
【長期目標】

下水道に由来する温室効果ガス排出量の削減に努めます

主な施策

- 1) 設備改築時の省エネ機器導入
- 2) 高温焼却の実施

2. 第1期アクションプログラムの評価

第1期アクションプログラムでは、処理場及びポンプ場の改築時に高効率型・省エネ型機器の導入検討を行っており、今後も高効率型・省エネ型機器の導入が求められます。また、辻堂浄化センターでは全3基のうち2基の汚泥焼却炉で高温焼却を実施中で、残り1基についても平成29年度に高温焼却炉への改築工事が完了することから、温室効果ガス排出のさらなる削減が期待されています。

	第1期アクションプログラムでの実施状況	評価指標	
		活動指標	効果指標
1) 設備改築時の省エネ機器導入	処理場・ポンプ場の設備改築時に、高効率型・省エネルギー型機器の導入検討を実施 😊	設備改築時の省エネルギー型機器導入 目標：－ 実績：設備改築時に省エネ機器導入検討 新エネルギーの導入 目標：導入検討 実績：導入検討を実施 😊	—
2) 高温焼却の実施	高温焼却の実施による温室効果ガス削減を実施（焼却炉2基で高温焼却を実施。1基はH29年度に高温焼却への改築工事了） 😊	高温焼却の実施 目標：高温焼却実施 実績：1号炉、3号炉の高温焼却実施 😊	—
施策評価	😊 処理場・ポンプ場の設備改築時に、省エネ機器の導入を積極的に行っている 😊 辻堂浄化センターの2基の焼却炉は高温焼却を導入済み、1基は改築工事実施中（H29年度工事了予定）であり、温室効果ガスの排出量削減に努めている		

用語：汚泥処理、高温焼却



3. 第2期アクションプログラムの実施方針

温室効果ガスの削減のほか、維持管理コストの削減効果等も考慮し、処理場・ポンプ場の改築時の高効率型・省エネ型機器導入を検討していきます。また、新技術の動向を注視しながら、新エネルギーの導入についても検討していきます。

辻堂浄化センターの汚泥焼却炉は、今後も高温焼却を実施していきます。

【主な事業内容のポイント】

- 設備改築時には高効率型・省エネ型機器の導入を検討する
 - ・設備改築時の省エネ機器導入検討 (①)

表1 「視点2-2. 温室効果ガス排出量削減」の主な事業内容

主な施策項目	具体的な事業	種別	事業実施時期					
			29	30	31	32	33	34
1) 設備改築時の省エネ機器導入	①設備改築時に省エネ機器の導入を検討	継続	→					
	②新エネルギーの導入を検討	継続	→					
2) 高温焼却の実施	③高温焼却の実施	継続	→					

4. 第2期アクションプログラムの目標（活動指標）

主な施策・事業の実施状況及び実施効果については、以下の活動指標を基に、3年ごとに評価を行います。

表2 「視点2-2. 温室効果ガス排出量削減」の目標（活動指標）

施策項目	指標		第2期AP目標		備考 (実績)
			中間評価 (H31年度)	第2期AP (H34年度)	
設備改築時の省エネ機器導入	活動指標	設備改築時の省エネ型機器導入	改築時に省エネ機器の導入を検討(H29～31)	改築時に省エネ機器の導入を検討(H32～34)	H23～28末 設備改築時に省エネ機器の導入を検討
	活動指標	新エネルギーの導入	必要に応じて導入検討(H29～31)	必要に応じて導入検討(H32～34)	H23～28末 導入検討を実施
高温焼却の実施	活動指標	高温焼却の実施	高温焼却の実施	高温焼却の実施	H23～28末 1号炉、3号炉の高温焼却実施